

春秋彩

Syunjusai

特集

「私たちの就業力育成支援事業の取り組み」…… 2

活躍する卒業生 ……………	7
国際交流 ……………	8
研究活動紹介 ……………	10
大学の動き ……………	12
INFORMATION ……………	13
生き生き元気種 ……………	14
人事情報 ……………	15
おすすめの一冊 ……………	15



 熊本県立大学

春秋彩とは 万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2012 SPRING

vol. 36

あいさつ



学 長
古賀 実

熊本県立大学は今年創立65周年を迎え、この間有為な人材を育成するという重要な役割を果たして来ました。今年3月、卒業修了者約550名を新たに社会に送り出しましたが、熊本県立大学としての学部卒業生数、大学院修了者数は7,900名を超え、本学の前身、熊本女子専門学校、熊本女子大学の卒業生数7,748名を上回る事になりました。昭和22年から平成5年まで47年間の伝統に加え、熊本県立大学としての17年間で、ほぼ同数の人材を輩出した事になります。これからも熊本県立大学ブランドの若者の活躍を大いに期待する所です。

さて、大学で培うべき能力について、「学士力」や「社会人基礎力」といった容易に量り得ない「力」が議論されて来ました。本学では専門分野の知識、外国語能力、コミュニケーション能力など十項目の具体的評価指標を定め、個々人の能力を総合的に伸ばす教育プログラムの充実を図っています。大学での学びに加え、生涯学び続ける姿勢を持ち続ける事が現在社会から求められている「就業力」の育成に繋がると確信します。

私たちの就業力育成

熊本県立大学では、学生の就業力を高めるための事業「学生GP制度」に取り組んでいます。この事業は、実社会と学生とを密接に結びつけ、文字通り社会に役立ち、より大きく社会に貢献できる人材を育成するものです。就職率を高めるといふ、対症療法的なものではありません。自らを律し、しっかりと足を踏ん張り、信念を持って仕事に向き合う力を育てることを、大目標に掲げています。(別掲「就業力育成支援事業 学生GP」参照)



熊本県立大学 特任教授
大園 光

23年度は、11の学生グループが、卒業研究として地域企業・社会から提案された課題に取り組みました。その概要は後に掲載していますが、地域の活性化策であり、アイデアも含めた商品開発であり、技術的な改良・工夫と、その内容は多岐にわたっています。共通するのは、「地域との連携を一層、強める」という考えです。

研究の取り組み及び成果を評価する公開審査会などの場で、関係者の方々から、この取り組みに対するさまざまな生の声(評価)をお聞きできました。「学生たちが参加してくれて、(自分たちの)活動について関心を持たれていることを実感し、張り合いが出てきた」「若者(学生)たちそのものが来てくれたことがうれしい」などの言葉が印象に残っています。

同時に、学生たちの取り組みに対する姿勢の変化にも気づかされました。数回にわたって報告会が催され、途中経過も含めて、発表・説明がありました。初期には、説明するだけで一生懸命、というのが正直な印象でした。それが次第に、自分たちがどういう立場で何をしているのか、問題解決にどう対処すべきなのか、などと社会的な意義をしっ



支援事業の取り組み

かりと意識するようになり、発表そのものも資料も、実に分かりやすく、自信をもった自分自身の言葉で語られ、示されるようになりました。

就業力という漠然とした言葉が、学生たちの取り組みによって、実証されたという思いが、強く、したので。この学生たちは、社会で大いに活躍できる、貢献できると。

職業倫理感、企業での定着率、業務遂行の継続力などに関して、若者たちに対する指摘は、厳しいものがあるのが現状です。そうした声の中で、「熊本県立大学の卒業生はすごい」「県大OB、OGはやる気がある、力がある」と高く評価していただき、その言葉の通りに企業・組織の繁栄に役立ち、地域社会の発展に貢献する力を育て上げる—熊本県立大学の就業力育成支援事業、学生GP制度の取り組みは、信念をもって推進されています。

就業力育成支援事業 学生GP制度

1年次から3年次にかけて展開されてきたキャリアデザイン教育の最終段階に、地域企業・社会と緊密に連携した卒業研究を位置づけることにより、4年次まで一貫したキャリアデザイン教育を構築し、総合的な就業力の育成に努めています。

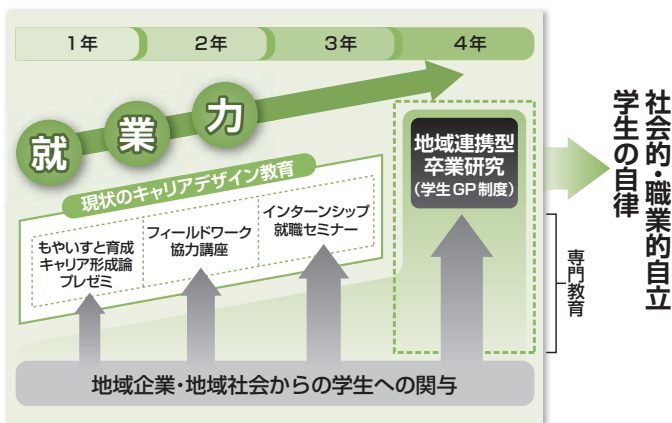
本学では、理論と実践の融合を体験する教育の場として、熊本県全体をキャンパスとし、「地域に生きる教育」を実践しています。これを卒業研究に展開させ、キャリアデザイン教育システムの体系化を図ります。

この一貫した取り組みを通して、学生の就業力にかかる「問題分析・解決力」「専門知識・技術力」「コミュニケーション力・プレゼンテーション力」「実践的知識・資格・技能」「自分自身・将来やりたいこと」「学問の意義」などに対する満足度の向上を目指します。

地域企業・社会から募集した研究テーマを、学生が卒業研究として行うことにより、実社会と学生とが緊密に結びつけられます。この取り組みを教育体制に組み込むことで、学生の自律・自立に向けた就業力の育成を図ります。

また、地域企業・社会の方々も参加した学生GP公開審査会を設置し、卒業研究の取り組み及び成果を評価します。この結果は、次年度以降の学生GPの研究水準の向上、専門教育の改革へと生かしていきます。

実社会での知識活用の在り方を学生に体験させ、実社会からの評価を大学内に反映させることによって、実社会とのバランスのとれた専門教育を行う体制を整備します。



平成23年度

学生GP研究、活動内容

小児1型糖尿病患者の 食事調査とその管理

グループ名:Blue Ribbon軍

研究内容 小児1型糖尿病患者のQOL向上を目的とし、これまで十分明らかにされていなかったエネルギー量と栄養素量を調べ、日常的な食事管理のサポート手法を明らかにする。

八代市中心市街地 活性化に関する研究

グループ名:さわラボ八代班

研究内容 現在、八代市の中心市街地アーケード街(本町通り商店街)は、郊外型の大型店舗の進出や近隣の高校の郊外移転により通行量が減少し、活気を失っている。この商店街を活性化するため、主に高校生を対象とした市街地の魅力の向上方策を探る。

天草における環境学習

グループ名:大気環境学研究室4年

研究内容 天草地域の大气環境の調査と熊本県の行政管理を事例として、①環境調査方法、②国と県による環境管理体制、③行政に講じる環境対策と措置にあたり、現場調査から実施するまでの流れを勉強する。

コンビニとのコラボによる食育を テーマにした高齢者向けの 弁当の商品開発

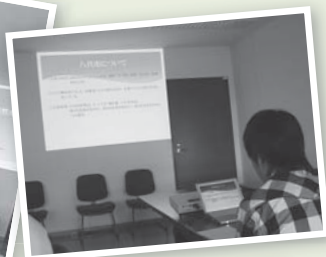
グループ名:PUK×ファミ

研究内容 本学と包括的な取り組みの中において、食育をテーマに商品開発を行う。開発のコンセプトは県産の食材を使用し、若い学生の感性を生かすというもの。地域の特性が生かされており、食育の要素を取り入れたメニューとなる。

クルマエビ養殖場の環境管理

グループ名:クルマエビ養殖新技術チーム

研究内容 魚類の養殖場は、限られた容量の水の中で集約的に養殖し、大量の餌を消費している。夏季には酸素濃度が著しく減少し、養殖魚の死亡や成長の鈍化が発生しやすくなり、生産性の低下をまねく。本研究では、これまでの研究で開発してきたマイクロバブル装置を用いた効率的な酸素付加技術を用いて、クルマエビの養殖場の環境管理を実施し、低コストによる生産性の向上を実現する研究を行う。



パルスシステムを活用した有害化学物質の除去

グループ名: 環境分析化学班

研究内容 パルス電極を直接水中に浸し、種々の有害化学物質を効率よく分解除去する方法を検討する。また、処理によって生成する副生成物についても検討する。学生は実験計画の立案、化学分析技術の実践を通じ、諸々の測定方法の原理、理論を再確認するとともに、結果を考察する力を身につける。

文学について語ることを社会とつなぐ

グループ名: 比較文学研究会

研究内容 文学を研究する学生が、話題提供、研究過程の提示をし、多くの人が文学を消費するのみではなく、積極的に生産的に解析し、議論する場を目指す。

キャリアとキャリア発達

グループ名: AKG2011

研究内容 キャリア概念の明確化に努め、特に人事施策としての従業員のキャリア支援について理論面の研究を進めるとともに具体的な事例について調査研究を行う。さらにキャリア発達に関する理論研究を行い、生涯にわたるキャリア行動の変化について研究を進める。

生活者としての在住外国人のための日本語教育テキスト

グループ名: 日本語支援

研究内容 熊本県内諸地域に在住の日本語支援を必要とする生活者を分類し各対象ごとに、どのような言語生活を送り、どのような日本語の学習が必要かを調査する。このデータをもとに、各々の生活者に対応した日本語教材を作成する。

玉名市における地域資源の発掘とそれを用いた地域の価値創造

グループ名: ガリラボ

研究内容 地域内の資源はそれが日常化するとともに、そこに住んでいる人々には意識化されにくくなっていく。日常化した資源を外部者である学生が、地域の支援者の媒介によって、地域資源発掘を行うことが今回の課題である。

放射式冷暖房システムの室内環境及び省エネルギー性能評価

グループ名: 放射冷暖房グループ

研究内容 放射式冷暖房は一般的な空気式の冷暖房に比べて快適な室内環境が形成可能と考えられている。さらに近年、熱源を工夫することにより省エネルギー性能を向上させた製品も開発されている。本課題は、このような製品の開発に関わる研究に従事することで、ものづくりに対する理解を深め、技術者としての素養を養うことを目的とする。



平成23年11月19日(土)、熊本県立大学CPDセンターにおいて、平成23年度の学生GP制度の研究・取り組みについて、公開審査会が行われました。厳正な審査の結果、研究に取り組んだ11グループの中から、次の3グループが成果優秀賞に選ばれました。その活動・取り組みぶりを語っていただきました。

生活者としての 在住外国人のための 日本語教育テキスト作成

グループ名:日本語支援

熊本県在住の外国人は増加傾向にあり、日本人の配偶者や研修生などの生活者も数多く暮らしています。

私達はその「生活者としての外国人」のための日本語のテキストを作りました。熊本市国際交流振興事業団の協力の下、熊本県内外を回り、日本語支援を必要とする生活者、そして、その支援者にインタビュー及びアンケート調査を行いました。

調査地の数は12に上り、インタビュー、アンケートの対象者も全部で90名以上です。調査結果を分析し、「生活者としての外国人」が今必要としている日本語の語彙・文型・表現を、文化庁の『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を参考に抽出して、緊急時編、病院編、仕事編の3冊にまとめました。

完成したテキストは、熊本県内の地域日本語教室に配布される予定です。また、国際交流会館のホームページからも閲覧出来ます。どうぞご覧ください。



コンビニとのコラボによる 食育をテーマにした 高齢者向けの弁当の商品開発

グループ名:PUK×ファミ

現在、日本は高齢化率約23%の超高齢社会を迎え、今後も高齢化率が上昇するとされています。

そこで、高齢者のための食環境改善や食育について検討するため、学生GP研究として、本学地域連携センター・食環境研究情報室・食健康科学科・株式会社ファミリーマートと共同で、高齢者向け弁当を開発しました。5回の検討会を経て完成した商品は10月18日から約1か月間、熊本・福岡・佐賀・長崎・大分各県及び山口県の一部のファミリーマート約730店舗で販売され、新聞やテレビによる広報活動や店舗視察も行いました。商品は、栄養バランスのとれた食材のキーワードである「まごわやさしい」を軸に、副菜を多く使い、全体の彩りにもこだわりました。商品開発を通し、計画性や積極性、情報収集力、創造力を伸ばすことができたと考えます。全学的な交流や発表の場は、視覚に訴える資料作成や人を惹きつける言葉や行動の習得にもつながりました。多くの学びをいただいたこの機会に深く感謝しています。



玉名市における地域資源の発掘と それを用いた地域の価値創造

グループ名:ガリラボ

総合管理学部津曲研究室 大塚 晴菜

チーム「ガリラボ」は、玉名観光協会と連携して、スマートフォン対応アプリ「セカイカメラ」を使った新しい観光づくりの研究を行ってきました。昨年度から研究室で取り組んでいましたが、平成23年度は学生GP制度のテーマとして支援して頂きました。その支援の下でフィールドワークを重ね、玉名市高瀬の花菖蒲祭りでは、祭りの準備段階から地元の実行委員会の皆さんと良好な関係を築くことができ、地域の人たちから観光につながる貴重な情報をたくさん収集することができました。活動の過程で、地域の人たちとの交渉、観光のための広報活動、様々な事務手続きなどをチームメンバーと協力しながらやってきて、そのことが座学や研究室内だけの研究では得られなかった貴重な体験となり、学生という殻を破れたように感じています。研究成果は、現在、動画や音声などが組み込まれた新しい観光情報「エアタグ」として玉名の地にゆらゆらと浮かんでいます。玉名を訪れた方に、地域の魅力をエアタグを通して感じて頂けたら嬉しい限りです。



活躍する卒業生

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。

熊本県立大学は、地域に有為な人材の輩出を使命の一つとする県内唯一の公立大学です。開設したての本学総合管理学部で学び、現在は県民の幸福を実現するため、熊本県行政の最前線で活躍される工藤あずささんにお話を伺いました。

総合管理学部卒
熊本県認知症対策・地域ケア推進室

工藤 あずさ さん



Profile

1998年3月 熊本県立大学 総合管理学部 卒業 同年
熊本県庁 入庁。2011年から現在の所属に勤務

常に好奇心を持ち、 何事にもトライしてみることが大切です

現在の仕事内容

県庁に入庁し14年目。現在は、健康福祉部長寿社会局の認知症対策・地域ケア推進課で働いています。

高齢者の方々が必要介護状態になっても、住み慣れた自宅や地域で、自立して、安心して暮らせるよう医療、介護、住まい、生活支援サービスなどが切れ目なく、提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向け、例えば、市町村職員の方と協働した中山間地域における在宅サービス提供の体制づくりや、在宅療養推進に向けた医療や介護の連携体制づくりを行う各地域の先駆的な活動支援、県内への事例普及などに取り組んでいます。

なかなか思ったとおりにいかないこともありますが、その分やりがいを感じることも多いです。県庁の仕事は内容が多岐にわたっていることが特徴で、私もこれまで産業人材の育成、ボランティア活動の支援、民間企業への派遣等いろいろな仕事を経験しました。全く違う仕事を覚えることは大変ですが、様々な分野から県民の暮らしに関わることができ、自分の知識やネットワークの広がりを感じながら、常に新鮮な気持ちで仕事に携わることができます。

学生時代・大学で得たこと

大学生活を振り返ってみると、熊本県立大学に名称が変更され、新設された総合管理学部の一期生として、まだ真新しい学舎、図書館等で、講義やゼミ活動、クラブ活動に取り組みました。特にコーポレートガバナンス論に取り組んだゼミ活動が思い出深いです。常に真摯に、温かく私たち学生を見守っていただいた担当教授のもと、英文の原書を翻訳しながらの討論、卒論指導などをとおし、常に問題は何かと問いかけ、問題意識を掘り下げるということを学んだことは、今日の私の大きな財産となっています。

卒業後、しばらく大学からは足が遠のいていましたが、4年ほど前から、熊本県立大学ランニング教室に参加し、小峯グラウンドで様々な年齢、職業の方々と一緒に毎週気持ちいい汗をかき、フルマラソンなどの大会にチャレンジしています。グラウンドはいつもたくさんの地域の方々の運動、憩いの場として賑わっていて、県立大学がそういった形で地域社会に貢献されていることをとても嬉しく感じます。

大学生活は、長い人生のなかであっという間です。後輩の皆さん、在学中にたくさんの方々に関わり、常に好奇心をもって、興味を持ったものには何でもトライしてみてください。

国際交流

～世界を学ぶ、海外と交流する～
International Exchange

ソウル市立大学校との国際学術交流セミナー

総合管理学部 准教授 澤田 道夫

熊本県立大学は、国際的な学術交流の推進を目的として、韓国・ソウル市立大学校との間に「学術交流に関する覚書」をかわしています。ソウル市立大学校は、12,000人以上の学生が学ぶ韓国の名門大学です。昨年2月には、同大学校の研究者5名が本学に来学し、学術交流セミナーを開催したところ。今年度は、ソウル市立大学校において学術交流セミナーを行うこととなり、本学総合管理学部から、黄在南教授、上拂耕生准教授、そして私こと澤田の三人が招聘されました。

2012年1月30日、ソウル市立大学校の政経大学（日本の学部にあたる）において、「日韓のローカル・ガバナンスの現在」をテーマに国際学術交流セミナーが開催されました。プログラムは、以下のとおりです。

第1セッション

司会：キム=ヒョンソン

発表1：澤田道夫「日本のローカル・ガバナンス ー行政学の観点からー」

発表2：リー=ジュオン「韓国のローカル・ガバナンス ー地方自治団体とプロ野球球団との関係を中心にー」

討論者：キム=ヒョック、ホ=スンイム

第2セッション

司会：黄在南

発表1：上拂耕生「日本のローカル・ガバナンス ー行政法の観点からー」

発表2：キム=デジン「韓国のローカル・ガバナンス ーソウル市の地域祭りを中心にー」

討論者：クム=ジェドク

双方の報告について様々な質問が投げかけられ、予定時間を超過して議論が行われました。同じローカ

ル・ガバナンスというテーマについて、発展過程からのアプローチ、連携モデルによるアプローチ、制度的アプローチ、計量分析によるアプローチなど、様々な視点から多角的に分析を行うことで、日韓の地方自治の現状に関する理解を深めることができました。

セミナー終了後は、韓国の郷土料理を囲んで懇親会が和やかに行われました。今後、更に国際学術交流を発展させるとともに、学生同士の交流も是非行いたいということで意見が一致しました。

この時期、韓国には大寒波が押し寄せており、最高気温が零度を下回るという大変な寒さでしたが、セミナーの方は熱い討論が行われ、大変有意義なものとなりました。今回招聘いただいたソウル市立大学校政経大学の諸先生方に感謝するとともに、今後とも連携・交流を強化していきたいと考えています。



世界に伸びる大学を標榜する本学では、「国際性の推進」を三大理念のひとつに掲げています。その理念をより具現化するため「国際交流ビジョン」を策定し、「学生」、「学術研究」、「地域」、それぞれの視点から全学的に国際交流活動を推進しています。

日本語教育とリクさん

文学研究科1年 志内 美沙希

リク・フェブリアンティさんが研究員として熊本県立大学にやってきたのは2011年11月。とても気さくで親しみやすい雰囲気をはなつリクさんは、インドネシア、ジャワ島にあるブラウィジャヤ大学で、2005年から日本語の講師をつとめています。

インドネシアには日本の製薬会社が数多く進出しています。高校では薬学を学んでいましたが、後々役立つだろうと大学では日本語教育学科にすすみました。大学に入学するまでは一切日本語はわからなかった、と流暢な日本語でおだやかに話すリクさんに驚かされます。大学入学当初は製薬会社への就職を大きな目標としていたのですが、就職するにあたって、教師になりたいという気持ちがまさり、日本語の教鞭をとることにしました。そしてこの度、さらなる日本語力の向上と、日本語教育の探求のために来熊したのです。

熊本県立大学を選んだ理由は、日本語教育専門の学科がある公立大学であり、カリキュラムもリクさんの求めるものと合致していたから。インドネシアとは違い、日本はたとえ小さな町でも施設や設備が充実しているので驚いたといいます。

日本の生活は宗教の違い等で不便があるのではと思いましたが、慣れれば大丈夫だということです。ただし母国の気温が38℃という常夏であるため、冬の自転車登校は大変だと笑います。そう言いながら、彼女は授業がない日でも学校に来て勉強にはげんでいます。

ご家族はインドネシアで暮らしています。職場結婚のご主人は英語の講師で、日本食が大好きだそうです。リクさんは手巻き寿司や味噌汁等をインドネシアでも作っていたということです。

リクさんは、「日本語の講師として、学生のためにさらに日本語の能力を高め、教授法などのアイデアをたくさん得て帰りたい。また学生の日本語の誤りがどうして起こるのかを分析し、その結果から有効な教材が開発できたらいいと思う」と語っています。同じ日本語教師という目標を持つ者にとって、リクさんの存在と彼女の発言は強力な刺激剤です。

「知らないことをもっと知りたい」、「日々勉強」が座右の銘だと語る彼女の授業のノートは、いつもメモで真っ黒です。



前列左から4人目がリクさん

いかにして近代文学が誕生したのか



文学部日本語日本文学科 講師
木村 洋

Profile

神戸大学大学院人文学研究科
博士課程後期課程修了(2010年3月)。
日本学術振興会特別研究員を経て、2011年4月より現職。

日本近代文学の成立

私は日本近代文学、とくに明治時代の文学を研究しています。

小説は明治時代に劇的に変貌します。江戸時代までの小説は、今の「まんが」「アニメ」のように基本的に楽しく時間をつぶせるものでした。しかし近代になり、それまでとは大きく異なる深刻で晦渋な小説が次々と書かれ、若者たちに愛読されるようになります。たとえば「夏目漱石」という言葉にはどことなく厳粛な響きを感じ取られると思います。その背後には、小説家が漫画家のような存在ではなく、偉大な宗教家のように重々しい存在として受け取られるようになったという事情があります。

つまり近代社会は、文学を単に楽しい時間つぶしとしてではなく、社会や人生について考える厳粛な営みとして整備し直したわけです。なぜ近代社会は新しい文学を必要としたのでしょうか。私はそのことを明らかにするために、近代文学成立期の状況を調査しています。

『小説神髓』から自然主義運動へ

具体的には次の二つの課題に取り組んでいます。

一つは、『小説神髓』(1885-86)以後数年間に顕在化する文運隆盛についての研究です。この展開のなかで、いわゆる「紅露道鷗」(尾崎紅葉、幸田露伴、坪内逍遙、森鷗外)の活躍が始まり、大胆かつ実験的な試みが次々と現れました。さらに、自由民権運動後に生まれた新しい言論活動(たとえば徳富蘇峰主宰の雑誌『国民之友』の刊行)、あるいは、政治から文学へという青年層の関心の転換(たとえ



「太陽」1巻1号(1896.1)、「日露戦争実記」5編(1904.3)ともに「雑誌王国」と言われた博文館が刊行



徳富蘇峰「人物管見」(民友社、1892)
同「大正の青年と帝国の前途」(民友社、1916)

徳富蘇峰が刊行した雑誌「国民之友」16号(1882.2)と101号(1890.11)

ば北村透谷や国木田独歩)も重要です。一連の展開がいかなる表現を生み出し、いかなる歴史的転換をもたらしたのか。この点を調査していきたいと思います。

もう一つは、1900年代における高山樗牛の批評活動から自然主義運動へという流れについての研究です。この流れを一貫して特徴づけるのは、青年層と年長世代のあいだの思想的対立です。このなかで文学は、青年層の新しい連帯を社会に確立するための媒体として、固有の社会的機能を持つに至ります。別の側面から言えば、この動きは、先に述べた『小説神髓』以後の文学革新が最終的に何をもたらしたかを示したものとと言えます。この歴史的展開は十分に明らかになっておらず、さらなる考究に努めたいと思います。

ここに述べたような文学動向のなかで、江戸時代までの小説ではなぜダメなのかが繰り返し確認されたはずですが、さらに、文学と「青年」(この言葉も明治期に広まった言葉です)のあいだに排他的な紐帯が作り出されることも重要です。つまり文学が、若者たちの感情や欲望を代弁する営みとして、改めてその役割を自覚し直すのがこの時期なのです。漱石のあの深刻な小説群も、こうした動きと密接に関わる形で書かれました。なぜ文学は劇的に変貌せざるをえなかったか。それは、このような文学状況への粘り強い検証によって明確になるはずだと考えています。

熊本と近代文学

私は従来の研究に不満を抱いています。それは、従来の研究が文学の歴史を明らかにするために実

作者のことしか見ようとしなからずです。しかし当時の資料群を仔細に追っていくと、別の光景に目を向ける必要があることが分かってきます。すなわち、必ずしも実作者という範疇には収まらない者たち、文学について語り、あるいは文学色の強い著作を書いた政論家、ジャーナリスト、史論家、宗教家といった知識人たちが無視できない役割を果たしていました。

とくに熊本出身の徳富蘇峰の影響は絶大でした。蘇峰は詩人でも小説家でもなく、ジャーナリストとして活躍しました。しかし清新で挑戦的な文学評論や史論を持続的に発表し、北村透谷や国木田独歩をはじめとする文学者たちに多大な刺激をもたらしました。こうした知識人の貢献を視野に入れることで、近代文学の成立過程はいっそう明瞭となるはずですが、なお私は熊本に赴任して真っ先に大江義塾跡(若き蘇峰が私塾を開いた場所)を訪問し、大きな感動を覚えました。蘇峰と深い因縁のある場所で研究できることに喜びを感じています。



徳富蘆花「青山白雲」(民友社、1898)、同「青蘆集」(民友社、1902)

事業者や自治体職員向けのCPDプログラムを開講

本学では、卒業生はもとより、広く企業や団体等で働く社会人を対象に、専門職業人としての資質能力開発の機会を提供する「熊本県立大学CPDプログラム」に取り組んでいます。平成23年度は、昨年10月に完成した熊本県立大学CPDセンターにおいて、主に自治体職員を対象にした「協働のまちづくり」、ブランドづくりに取り組んでいる事業者等を対象にした「くまもとブランド塾2011(事業者向けコース)」等を開講しました。会場は、キャリアアップに燃える受講者の熱気であふれ、「来年も参加したい」などの声があがるほど好評を得ました。



「協働のまちづくり」の講義の様子(H24.1.21)

アルピニスト・野口健さんを迎えて「環境学校」を開催しました!

熊本県立大学では、富士電機株式会社・玉名郡和水町と包括協定を締結し、里地里山再生に取り組む「なごみの里づくりプロジェクト」を実施しています。

平成23年10月15日(土)、同プロジェクトの一環として、玉名郡和水町のなごみの里一帯で、富士電機主催、熊本県立大学・和水町共催による「The Earth Succession 2011 富士電機環境学校」を開催しました。学校長としてアルピニストの野口健さんをお招きし、和水町や南関町の小学6年生38名の参加のもと、稲刈りや鳥の巣箱の設置、生き物調査などを実施しました。本学から参加した26名の

学生がサブリーダーをつとめ小学生の活動をサポートしました。



© OFFICE NOGUCHI KEN

熊本県立大学食育レシピ

熊本県立大学「食育の日」で提供したオリジナルメニューのレシピ集を作成し、本学学生に配布するほか、熊本県内をはじめ全国の主要書店で販売しています。「食育の日」では、学生が包括協定自治体を訪問し生産・販売の現地にて調査を行い、オリジナルメニューを考案・提供していますが、このレシピ集では、平成22年度のオリジナルメニューのレシピを中心に、関連する栄養成分や食材に関する情報をふんだ

んに掲載しています。見て楽しく、読んで試したくなるレシピ集です。ぜひ、御活用ください。A5判、カラー、64ページ販売価格600円。



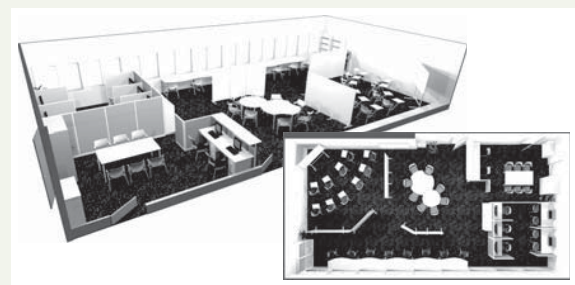
語学ラーニング・コモンズLLCを開設

語学学習に関する情報や支援ツールを満載し、学生が気軽に立ち寄り利用できる学習スペースLLC(Language Learning Commons)を4月に開設しました。

LLCは語学学習のラーニング・コモンズというコンセプトのもとに関連するサービスをワンストップで備え、語学に興味を持つ学生や留学を志す学生が共有の場として集い、磨き合い、国際化の時代にふさわしい語学能力を育てていくことを目的としています。

専門のスタッフが常駐し、語学に興味を持つ学生や留学を志す学生のためにアドバイスや情報提供を

行うとともに、ノートPCやiPadなどの情報機器を備え、自学自習、グループ学習、プレゼン練習といったさまざまなニーズを多面的にサポートします。



新しい中期計画がスタートしました!

本学は、平成18年4月の地方独立行政法人法に基づく公立大学法人へ移行後、熊本県知事が指示する6年間の中期目標を達成するための中期計画を作成し、それに基づく大学運営を行っています。

第1期(平成18年4月～平成24年3月)では、大学院文学研究科博士課程を開設し、これによりすべての教育課程で学士課程・博士前期課程・博士後期課程を完備した高度な教育研究体制を整備したほか、包括協定制度の整備、熊本県立大学未来基金の創設など今後の大学運営の礎となる大学改革を進めました。

平成24年4月から始まる第2期(平成24年4月～平成30年3月)では、第1期の成果を踏まえ、「教育の質の向上」、「特色ある研究の推進」及び「地域貢献活動の更なる推進」に重点的に取り組み、「地域社会を担う人材育成の拠点」、「地域社会の発展に貢献する知的創造の拠点」及び「地域社会における学習・交流の拠点」としての大学を目指していきます。

第2期中期計画で重点的に取り組む事項

教育の質の向上への取組	特色ある研究の推進への取組	地域貢献活動の更なる推進への取組
<ul style="list-style-type: none"> ○学部と大学院との接続・連携の強化 ○人文科学・自然科学・社会科学の「知の統合」を目指す全学共通教育プログラムの開発 ○カリキュラム・ポリシーの点検と明確化等を踏まえ、教育課程の編成及び成績評価基準の精緻化 ○「学生GP制度」の定着と実質化 ○協定校をはじめとする海外大学との交流を深め、教育の国際化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○科学研究費補助金への応募の義務化 ○重点的に推進する研究の方向性の明確化 ○「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」は日本有数、「基礎自治体との共創的研究」及び「言語・文学・文化の横断的研究」は九州不可欠なものを旨として、推進組織の整備も含め独自性のある研究として社会に認められるよう組織的推進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○包括協定の実績の下、本学の特色を活かした連携を強化し、組織的な推進体制の構築 ○研究成果と研究情報の定期的な発信 ○大学・試験研究機関等との相互協力による地域産業の振興に資する研究活動の強化 ○高等教育機関としての九州全域での貢献を視野に「熊本県立大学CPDプログラム」の開発・提供

サークル頼り 【軟式野球部】

平成23年11月19日(土)から24日(木)まで熊本県で開催された第34回全日本大学軟式野球選手権大会で本学の軟式野球部が3位に入賞しました。この他にも第44回フリッパー競技大会で優勝したダイビング部、第50回熊本市杯剣道大会・青年の部で優勝した剣道部など、サークルの活躍が目立ちました。



後援会便り

後援会とは

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

【後援会の事業】

次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策講座、就職試験対策作文講座、ITパスポート試験対策講座、二級建築士講座、簿記講座等)を開催
- 適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開 等

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費の一部、全国大

会出場経費等の一部を助成

- 学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置 等

《国際化推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費の一部を助成
- 留学対策講座の開催 等

《教育研究助成事業》

- 学生共同自主研究助成
- 国内学生大会等出場助成 等

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。学生が充実した学生生活を送るためにも後援会事業を御理解いただき、是非ご加入ください。途中年次であっても随時入会を受け付けています。



昨年度、学生共同自主研究助成事業を活用し「熊本市内の小学生を対象とした防災意識・知識の向上を目的とする事前学習サイト」を研究開発したグループがあります。

自然災害が発生した時、できるだけ安全に避難できるように、自分の住んでいる地域の状況、どのように対処すればよいか等を学習できるサイトを構築しました。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/kumabou/index.html>

活き活き元気種!

このコーナーでは、サークル活動をはじめ、地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。

熊本女子大学時代からの 伝統を誇る文芸部

本学にはさまざまなサークル・学生団体が存在し、学生たちは学業以外でも学部・学科等の枠を超えて活発に活動を行っています。

今回はその中から、本学前身の熊本女子大学時代からの歴史を持つ一方、近年新たな同人誌を起こすなど活動の幅を広げている文芸部を紹介します。

熊本県立大学文芸部は、文芸部誌の発行を主な活動とする、文芸サークルです。

「文芸」と聞いて皆さん何を思い浮かべられるでしょうか。辞書的な意味で言えば文芸とは言語による芸術、文学その他の芸術ということになっています。なんていうと固く感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、その実、小説・詩・エッセイなど各人が思うがままに自由に創作活動をしています。

そんな私たちの作品発表の大切な場となっているのが「レテ」「文庵」という二つの文芸部誌です。

文芸部誌などと、また固そうな響きの言葉ができましたが、部誌とは部員の創った作品をまとめた冊子(本)のことです。

部誌「レテ」は女子大時代から続く伝統ある文芸部誌で、白垂祭と卒業式にあわせて年2回発行しています。今年は第60号を発行予定です。また「文庵」は、部員の作品発表の場を増やすために2011年より発行している部誌で、印刷・製本など全ての作業を部員の手によって行っています。(「レテ」の印刷・製本は業者さんをお願いしています)

作品の創作は基本的に一人で行うもの…孤独な作業なのですが、皆の作品を一つの部誌としてまとめ、製本し、読み合うことによって制作意欲も高まりますし、お互いに刺激を受け合いながら創作に励むことができます。

レテは白垂祭などで販売しておりますし、文庵は図書館等で無料配布して頂いています。部員の作品が、一人でも多くの方に読んで頂ければ、と思うばかりです。

また、作品の質向上を図り、長期休暇中には「講評大会」なるものも開催しています。こちらは事前に提出された作品を部員が各々読んできて、作品に対する意見を述べあう会です。お茶を飲んだりしながら、和やかな雰囲気の中で作品に対して感想を言い合うこ

ともあれば、時には熱い議論が交わされることも……。この講評大会には、引退された先輩や顧問の先生もお呼びしており、より様々な意見を聞くことができるので、作品創作の上で得るものは大きいです。

今後も、このように、「ただ書いているだけ」のサークルにならないよう、アクティブに、皆で楽しく活動していきたいと思っています。



熊本県立大学 文芸部
部長 中野 綾香さん
文学部 日本語日本文学科 3年



レテ(左)と文庵(右)

人事情報

採用(平成24年4月1日付)

[文学部]					
日本語日本文学科		准教授	平岡	隆二	
[総合管理学部]					
総合管理学科	パブリック・アドミニストレーションコース	講師	土居	俊平	
総合管理学科	ビジネス・アドミニストレーションコース	准教授	藤井	資子	
総合管理学科	ビジネス・アドミニストレーションコース	講師	飯島	賢志	
総合管理学科	ビジネス・アドミニストレーションコース	講師	河西	卓弥	
総合管理学科	地域・福祉ネットワークコース	准教授	安浪	小夜子	

就任(平成24年4月1日付)

[副学長]		半藤	英明
[学部長]			
文学部長		山田	俊
環境共生学部長		堤	裕昭
総合管理学部長		松尾	隆
[研究科長]			
文学研究科長		村里	好俊
環境共生学研究科長		北原	昭男
アドミニストレーション研究科長		明石	照久
[センター長]			
地域連携センター長 (環境共生学部 教授)		松添	直隆
学術情報メディアセンター長(総合管理学部 教授)		三浦	章
[学科長・コース長]			

熊本県立大学未来基金へのご協力に、心よりお礼申し上げます。

熊本県立大学未来基金につきましては、平成23年10月1日から平成24年2月29日までの間に、下記のとおり個人9名、2法人・団体等の皆様方から総額980,000円のご寄附をいただき、これにより平成21年9月8日設立以来の基金総額は、89,772,255円(申し出分を含む)となりました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様へ感謝し、ここにご芳名を記載させていただきます。

(文学部)					
日本語日本文学科長		鈴木	元		
英語英米文学科長		吉井	誠		
(環境共生学部)					
環境資源学科長		張	代洲		
居住環境学科長		村上	良知		
食健康科学科長		南	久則		
(総合管理学部)					
総合管理学科	パブリック・アドミニストレーションコース長	進藤	三雄		
総合管理学科	ビジネス・アドミニストレーションコース長	黄	在南		
総合管理学科	情報管理コース長	宮園	博光		
総合管理学科	地域・福祉ネットワークコース長	荒木	紀代子		
キャリアセンター長 (総合管理学部 教授)		津曲	隆		
保健センター長 (環境共生学部 教授)		福島	英生		

昇任(平成24年4月1日付)

環境共生学部	教授	李	祥嘉(李 麗)
環境共生学部	教授	松崎	弘美
総合管理学部	教授	飯村	伊智郎

退職(平成24年3月31日付)

文学部	教授	稲川	順一
文学部	教授	山崎	健司
環境共生学部	教授	中島	熙八郎
総合管理学部	教授	中宮	光隆
総合管理学部	教授	横山	利枝
総合管理学部	教授	棟方	信彦
総合管理学部	准教授	佐々木	達也

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)*○内の数字は、累積寄附回数です。
50万円……社団法人造園建設業協会③ 5万円……第15回生一同

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)*○内の数字は、累積寄附回数です。
亀山 春 黒木 誉之② 益田 和弘

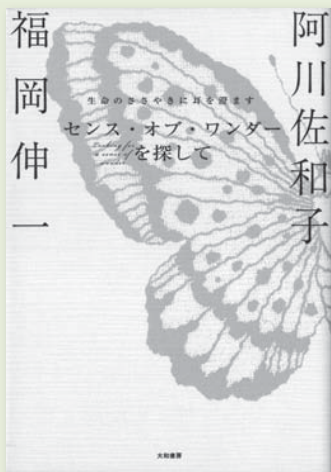
3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

6名

おすすめの1冊

「センス・オブ・ワンダーを探して」

阿川佐和子、福岡伸一



幼い子どもたちを見ていると、その目の輝きは本当にまっすぐで美しい。どの子どもも、可能性の塊に見えてしょうがない。大人になるにつれ、感じる前に頭であれこれと考えてしまう。溢れる情報の中で、時に惑わされながら自分を見失うことも、ある。

「知ることは、感じることの半分も重要ではない。(レイチェル・カーソン)」ことを、本書で福岡氏と阿川氏の対談により再確認。「本当は世界は繋がっているのに、私たちは常に部分を切り取ってその中だけでものを考えがちになってしまっている。例えば、病院は診療科が無数に分かれているし、研究者も何かの専門馬鹿だったりするかもしれない。でも、「世界は繋がっていて、部分を切り離すことは出来ない」現象は、身近なあちこちにある。部分だけではなく「全体」を大学という場で改めて見出すことは可能だ。忘れかけているかもしれない、あの頃のセンス・オブ・ワンダーを呼び起こすきっかけの一冊。



居住環境学科 准教授
西 英子

熊	本	県	立	大	学
ギ	ャ	ラ	リ	ー	



View 作／杉本 律子

180 cm × 180 cm

熊本女子大学出身で、独立美術協会などで活躍される杉本律子氏の絵画を紹介します。
この絵画「View」は、本学が現在の月出キャンパスに移転した際に、本学からの依頼により
寄贈されたもので、本部棟ロビーの壁面に飾られています。

TOPICS

『くまもと紫のはなし』、『ジェーンズが遺したもの』を刊行しました！

熊本県立大学では、これまでに蓄積した学術研究の成果を地域に還元することを目的に、
標記の書籍を熊日新書から刊行しました。これらは、平成21年度に刊行した「このとりの
ゆりかご」を見つめて、『至宝の徳富蘆花』に続く出版となります。

『くまもと紫のはなし』は、熊本や本学とゆかりの深い「紫」をキーワードに15人の執筆者
が文学、植物ほか、さまざまな話題を書き下ろしたものです。また、『ジェーンズが遺したもの』
は、熊本洋学校教師として熊本の近代化に貢献したL.L. ジェーンズを多角的に分かりやすく
紹介した内容となっています。是非、ご一読ください。



「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

再生紙を使用しています



この印刷物は大豆インキを使用しています